

わかち愛もせうし 水上理事長が勇退 新理事長に高橋氏



わかち愛もせうしの
新理事長に就任した高橋さん

NPPO法人「わかち愛もせうし」の設立当初から理事長を務めてきた水上明さんが、このほど退任し、新理事長に高橋久夫さんが就任しました。

同法人は平成26年、住民主体による地域福祉活動の拠点として設立。妹背牛町社会福祉協議会が地域福祉実践計画の策定に向けて全世帯を対象に実施したアンケートでは92.28%という高い回収率を記録し、「この町で幸せに暮らしたい」「気軽に集まれる場所がほしい」といった住民の声を受けて誕生しました。



設立以来12年間にわたり
理事長を務めた水上さん

設立以来、水上さんは6期12年間にわたり初代理事長として法人運営をけん引。わかち愛食堂やふまねっと運動などを通じ、高齢者の健康づくりや交流の場づくりに尽力したほか、わかち愛劇団の活動にも力を注ぎ、地域住民が支え合う環境づくりに貢献しました。

水上さんは「町民の皆さんが楽しそうに活動する姿を見ることが何よりうれしかったです。多くの方に支えられ、自分自身も元気をもらった12年間だった」と振り返りました。

後任の高橋さんは「町民一人ひとりの個性を生かしながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指したい」と抱負を語りました。



「わたしのもせうし時間」は、妹背牛町で暮らす人たちにスポットを当てた不定期企画です！

根曲竹の魅力を語る
野村さん夫妻



根曲竹細工に魅せられて 自然の恵みを編み込む野村さん夫妻

北海道の山々に自生する根曲竹（ねまがりだけ）。雪の重みに耐えながら育つため根元が湾曲し、しなやかさと丈夫さを兼ね備えていることから、かごやざるなど暮らしの道具の材料として重宝されています。

この根曲竹の持ち味に惹かれ、昨年4月に妹背牛町へ移住したのが、竹細工職人の野村俊也さん、奈緒美さん夫妻です。近隣に良質な根曲竹が自生する山があり、竹の採取や制作活動に適した環境が整っていることが移住の大きな理由でした。

「函館市出身の野村さん夫妻は、上川管内の地域おこし協力隊として活動しながら竹細工の技術を習得。現在は作品制作のほか、教室やワークショップを開催し、根曲竹細工の特長を幅広い世代に伝えていきます。」

根曲竹は、本州に自生する太く真つすぐな竹と比べて細いため、一つの作品を作るのに多くの竹材を必要とします。その分、手間と時間はかかりますが、繊細で美しい仕上がり特徴です。

「子どもが触ってもけがをしないよう、一つ一つ丁寧に仕上げています」と俊也さん。「暮らしに役立つ自然素材の竹に惹かれました」と奈緒美さんは話します。

作品は自宅内の工房（南21町内）で事前予約制により販売しているほか、東京や札幌の百貨店などでも取り扱われており、根曲竹細工の魅力を道内外へ発信しています。

野村さん夫妻は「根曲竹の手仕事を通して、その文化や魅力を未来へつないでいきたいです」と話し、制作活動に励んでいます。